

令和元年 12 月 19 日

秩父市議会議長 木村隆彦様

総務副委員長 山中進

総務委員会行政視察報告書

1 期日 令和元年 10 月 1 日（火）～ 3 日（木）

2 視察先 富山県氷見市、石川県白山市、富山県富山市

3 参加者	副委員長	山中進	委員	土谷眞一
	委員	上林富夫	委員	新井重一郎
	委員	高野宏	委員	浅海忠
	議長	木村隆彦		

4 視察目的

富山県氷見市 「移住定住事業」

○市の概要

氷見市は県の北西部に位置し、北・西・南を山地に、東を海に囲まれた地域で、中山間地域では川沿いに集落が形成されている。市の面積は、230.56 k m²、人口は平成元年 9 月 1 日現在 46,909 人である。温暖な気候と美しい自然、豊かな海の幸、山の幸に恵まれた氷見の歴史は古く、有史以前から人の生活が営まれていたことは住居跡や出土品からもうかがえ、4 世紀半ばにはこの地域を統括する一大勢力が存在していたこともうかがえる。奈良時代、江戸時代を経て明治時代には、工業の近代化が図られ製針工場やセメント工場等ができた。昭和に入ると、昭和 27 年 8 月 1 日に、旧氷見町に 3 か村が合併して市政を施行し、さらに 28 年、29 年には残りの 14 か村が合併して全国にもまれな一郡一市が誕生した。平成に入ると、市町村合併が国によって進められるが、氷見らしいまちづくりを目指し単独市制を選択した。日本海側有数の氷見漁港には、四季を通じて 156 種類もの魚が水揚げされ、中でも「ひみ寒ぶり」が有名。

○事業の概要

氷見市では、従来から郊外の平地への人口流出が目立ち、昼夜間人口比率が低く、進学や



結婚、住宅購入の際に市外へ転出する傾向がある。氷見市では、平成 27 年 47,992 人から令和 42 年（2060 年）には 17,644 人になるとの人口推移の予測がでていいる。そこで減少傾向を少しでも緩やかにするため移住・定住施策として次の 5 点を実施している。1 として「氷見市 IJU 応援センターの設置」

「富山県氷見市視察」である。平成 28 年 11 月に市街地に設置、運営は民間事業者へ委託。主な業務内容は移住相談窓口、Web サイト、SNS の運営、移住・定住イベントの企画、開催など。2 として「各種補助制度の運用」で、定住マイホーム取得支援補助金、住宅リフォーム支援補助金、定住促進賃貸住宅家賃補助金、移住世帯生生活応援金など。3 として「氷見市空き家情報バンクの運営」、4 として「関係人口の構築」、これはふるさとワーキングホリデーや氷見スタディツアーの実施、5 として「各種イベントの実施」Little HIMI、人材交流ワークショップ、移住者交流会等の開催。応援センターを経由して移住した IJ ターン者数の実績は、H29 が 29 人、H30 が 25 人、R1 は 7 月末で 13 人である。

石川県白山市 「SDG s 未来都市」

○市の概要

白山市は、石川県加賀地方の中央部、県都金沢市の南西部に位置し、人口は平成 31 年 3 月 31 日現在 113,459 人、面積は 754.93 k²である。平成 17 年 2 月 1 日、松任市をはじめ 1 市 2 町 5 村の合併により誕生した。白山国立公園や手取川、日本海など豊かな自然に恵まれ海岸部から山間部まで、およそ 2,700m の標高差と環境に富んだ市全域を「白山手取川ジオパーク」として日本ジオパークに認定されている。また、古くから平野部は物流等の拠点として、白山六地域は霊峰白山のふもとに白山比咩神社をはじめ多くの社寺の門前町として栄えてきました。産業では、こしひかり米やそば等の生産が盛んで、商工業においては、積極的な企業誘致等により年間商品販売額、製造品出荷額等は、年々増加傾向にある。

○事業の概要

平成 30 年 6 月に SDG s 未来都市として全国 29 自治体の 1 つに「健康で笑顔あふれる元気都市」白山市が認定された。未来都市計画の目的としては、白山ユネスコエコパーク及び白山手取川ジオパークの理念に基づき、自然環境を保持・活用し、山間部を拠点に、産官学民関係のもと、環境に調和した



「白山市視察」

持続可能な経済発展や豊かな生活を実現し、その成果を市全体に還元するサイクルの確立を目指すとしている。「経済」「社会」「環境」の調和した次世代のまちの実現のために「IoT、AI、ロボット技術等による環境保全や教育の実践」、「データの利活用技術を身に付けた女性が活躍できる環境の整備」等を行うとしている。この取組体制としては、市長をトップとした推進本部を設置し、大学や民間企業をアドバイザーボード（行政アドバイザー）として、連携し推進している。その他、大学や企業との連携協定、シンポジウムの開催、会議資料へのロゴ表示、国際ネットワークの強化など多彩な事業を行っている。

富山県富山市 「シティプロモーション」

○市の概要

富山市は、日本海側のほぼ中央に位置し、人口は平成31年3月末日現在415,904人、面積は1,241.77k㎡である。水深1,000mの富山湾から標高3,000m級の北アルプス立山連峰まで標高差4,000mの多様な地勢と雄大な自然を誇り、また古くから「くすりのまち」として全国に



その名が知られるように、薬業をはじめとする様々な産業と高度な都市機能、そして多様な文化と歴史を併せ持つ中核都市である。平成8年には旧富山市が中核市に移行し、平成17年4月には、富山市をはじめ1市4町2村が合併し、新しい「富山市」が誕生した。

「富山市役所タワーより」

○事業の概要

選ばれるまちへ、交流・定住人口を増やすために「まち」の魅力を発見・再確認し、市内外へ積極的に発信する「シティプロモーション」。その主な事業としては、全国への情報発信として1、雑誌等への展開、2、ミシュランガイド富山・石川（金沢）2016 特別篇、3、ショートアニメムービーを製作し、SNS等を通じ広く普及させる。4、TGC（東京ガールズコレクション）富山2018の開催、5、市民の取組としてシティプロモーション認定事業を開始など、市内での取り組みは、1、フィルムコミッションの設立、2、富山やくぜんブランド化、3、孫とおでかけ支援事業で、この事業は高齢者の外出機会を促進するとともに、祖父母と孫（曾孫）が一緒に来園、来館した場合に入園料、観覧料を全額免除。4、花Tram・花Busモデル事業、5、水を生かしたプロモーション、6、ガラスの街とやま、国際的なプロモーション事業、ANAとの連携による協定の締結や各種イベントを実施している。また、シティプロモーションとの2本立てで自分たちが住んでいる「まち」に対して抱く住民たちの誇り「シビックプライド（地域への誇り・愛着）」事業も併せて実施している。

【 総務委員会視察報告 山中 進 】

氷見市

移住定住促進事業について、IJU応援センター民間委託により運営し、移住定住のための取組を推進した。IJU応援センターは、移住のための取組を推進し、受託事業者の取組で人口が増加した場合に成果報酬を支払うなど、より民間の知恵を引き出すことを企図している。

主な取組は以下の通りで、きっかけづくり、移住支援、定着支援、Webサイト、Face book、パンフレットの作成で情報発信を行うなど暮らし体験ツアー・氷見市への移住に強い関心を持つ人を対象とし、一人一人のニーズに合わせた体感ツアーを計画し実施。住居支援、なりわいづくり支援・自らのなりわいづくりや副業をつくる動機づけを後押しの他、ふるさとワーキングホリデー・関係人口の増を企図し、夏・冬に5名ほどの大学生等に参加してもらい、氷見市での暮らしを体験する中、平成30年度目標35人、20棟で実績は、25人、38棟となっている。

白山市

SDGs 17の目標と163項目の取組によるまちおこしを女性の社会進出をテーマに、この事業を進めるなか合併した周りの地域の女性たちが就業と正業につき定着し居住する地域で中心的な存在となり活躍している等説明があった。

【 総務委員会行政視察報告 土谷 眞一 】

10月1～3日に総務委員会は富山県氷見市（移住定住施策）、富山市（シティプロモーション）、石川県白山市（SDGs）の3市を視察した。この中から氷見市を取り上げる。氷見市を代表する人物として浅野総一郎氏の名があがったからだ。氏は日本セメント（旧浅野セメント）を創設し秩父小野田セメントと合併、現太平洋セメントとなり氷見市は秩父市と縁があることがわかった。また、施策も秩父市と近く参考すべき事も目に付いた。移住定住施策は1)IJU応援センターの設置。運営は民間事業者へ委託しているとのこと。注目したのは0～2歳児で祖父母が面倒を見られる場合はその家庭に補助金を出すということである。財源はふるさと納税を活用しているとのこと。秩父も取り入れるべきと感じた。2)マイホーム取得支援補助などの各種補助制度。秩父と類似している。3)空き家バンクの運営。こちらは移住後の氷見市での暮らしがイメージできるような表現や視点を心がけており通常の不動産情報サイトには無い内容になっているとのこと。ここは興味深く秩父もアニメ等を利用して秩父の魅力をアピールしても良いと思う。4)関係人口の構築。興味を引いたのはふるさとワーキングホリデーである。都市部の若者などを対象とし2週間～1カ月程度働きながら氷見での暮らしを体感し、交流を深めてもらうということである。成長してからも接触を計り長い年月をかけ氷見市との関係を構築することが目的とのこと。秩父市も関係人口を増やしていくべきである。自治体ごとに似ている施策もあるが、逆に取り入れるべき施策もあり生き残りを賭け努力している姿が感じられた。

【 3 市（氷見市、白山市、富山市）行政視察所感 上林 富夫 】

氷見市は秩父市より少ない人口4万6千人の四季を通じて156種類もの魚が水揚げされる漁業の盛んな町である。中でもこれから旬を迎える「氷見寒ブリ」は全国的に有名である。氷見では移住、定住施策などをお聞きした。移住者に対する住宅取得支援、賃貸住宅、日常生活支援など他にも手厚い政策が見られるためか、ここ数年、毎年30人くらいの移住がある他のことだが近隣の市や町から半数を占めている模様である。

白山市は平成17年に1市2町5村の合併により誕生した11万の市であり、住みたい町ランキング上位に位置しているとの事である。国連サミットで採択されたSDGs日本語で言うと「持続可能な開発目標」の略だそうだが2030年までの国際社会全体の開発目標「誰一人として取り残さない」社会の実現を目指す未来都市として全国29自治体の一つに30年6月に選定され17の目標について取組を始めた。ドコモや大学などとも連携し交付金等活用し進めていく模様である。各事業については日が浅いため、今後に益々の発展を期待したい。最後に人口41万超の富山県の中心都市、富山市のシティプロモーション事業について勉強した。秩父市とは比べ物にならない規模の大都市だから可能なのか解らないが飛行機会社（事業費約3,000万円）や映画界などとも積極的に連携し、定住人口を増やす施策は秩父市では厳しいところもある。今回の視察3市は人気の住みよい「まち」のようだが人口増はそれほどでもない。真冬に金沢や能登に所用で何度も訪れた事もあるが冬の北陸を知る人には移住はかなり厳しい地域である。

【 氷見市、白山市、富山市の視察 新井重一郎 】

総務委員会として上記3市を視察した。テーマは人口が減少する中で各市の取り組む施策についてである。氷見市（富山県）の人口は47,535人である。取り組んでいる重点課題は移住定住施策である。H28年よりIJU応援センターの設置、運営は民間事業者、休日も営業、主な業務内容はWebサイト、SNS、空き家バンクの運営、移住イベントへの出店等。各種補助制度：定住マイホーム取得支援、住宅リフォーム支援、移住世帯生活応援金。関係人口の構築：ふるさとワーキングホリデー、スタディツアーの開催等。H29年29人、30年25人移住。

白山市（石川県）H17年一市4町の合併により誕生。現在の人口は113,459人。取り組んでいる重点課題はSDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）。2015年国連サミットで採択された、2030年までに持続可能な世界を実現するための17の目標：貧困、飢餓、保険、教育、ジェンダー、水・衛生、エネルギー、経済成長と雇用、インフラ、産業化、不平等、持続可能な都市、持続可能な生産と消費、気候変動、海洋資源、陸上資源、平和、実施手段。を掲げ、市長を推進本部長とした産官学民の連携体制で進めている。

富山市（富山県）。現在の人口は415,904人。取り組んでいる重点課題はCity Promotion（H21～ 交流・定住人口を増やすために、まちの魅力を発見・再確認し、市内外へ積極的に発信する）。「暮らしたいまち」「訪れたいまち」に選ばれる街となるため、市の認知度やイメージの向上を図るシティプロモーションを推進すると共に市民の本市に対する愛着や誇りである「シビックプライド」の醸成を図る。としている。

【 総務委員会行政視察を終えて 高野 宏 】

今回の総務委員会行政視察は、富山県氷見市の「移住定住事業」石川県白山市の「SDGs 未来都市」富山県富山市の「シティプロモーション事業」の3市を訪問し、先進事例や施策、事業の進捗状況、成果等について研修を受けた。

第1日目の10月1日は、氷見市役所を訪問し、移住定住施策についての説明を受けた。氷見市は日本海側でも温暖な気候で、豊かな海の幸、山の幸に恵まれた美しい自然の街であるが、昭和29年の大合併時7万人の人口を有していたが、全国的な傾向の人口減少により現在4万7千人を割っている。そのため積極的に移住・定住施策を進めている。

1に、IJU応援センターを設置し、移住希望者の相談窓口、移住後の定着支援、空き家所有者の相談窓口、移住者を中心としたイベント会場等、幅広く活用されている。

2に、各種補助制度の運用で、マイホーム取得支援補助金、住宅リフォーム支援補助金、定住促進賃貸住宅家賃補助金、移住世帯生活応援金等多種の補助制度があり、また、今年度より、新婚世帯・子育て世帯・新しく氷見で医療・介護・保育の人材として働く人などへの補助制度が拡充された。その他、空き家情報バンクの運営、ふるさとワーキングホリデー・氷見スタディツアーの開催等多くの事業を積極的に行っている。実績として移住者は、平成28年11人、29年29人、30年25人、今年度も7月までで13人と成果が上がっている。氷見市の移住定住施策は積極的であり、満足できる内容の視察研修であった。2日目の白山市・3日目の富山市の視察も内容が濃く、大変有意義な3日間であった。

【 氷見市移住定住施策 浅海 忠 】

氷見市は富山県の北西部に位置し、能登半島の付け根に位置し北から西は石川県、南は高岡市に隣接し、東は富山湾に接している。面積230㎢人口約46,900人で、昼夜間人口比率が低く、進学や結婚、住宅購入の際に滋賀へ転出する傾向がある。昭和55年、6万2千人の人口が2060年には1万7千人余りに減少するとの予測がされた。

移住・定住施策①「氷見市IJU応援センター」を平成28年に設置し民間事業者へ運営を委託し、「移住を希望する方々の相談窓口・移住後の定着支援・空き家所有者からの相談窓口・移住者イベント会場」として活用している。

②各種補助制度「定住マイホーム取得支援補助金・住宅リフォーム支援補助金・定住促進賃貸住宅家賃補助金・移住世帯生活応援金」を運用している。

③氷見市空き家情報バンクの運営、HPに掲載し移住・定住希望者へ情報提供し、物件の魅力をアピールしつつ、移住後の氷見での暮らしがイメージ出来るような情報提供している。

④関係人口の構築、「ふるさとワーキングホリデー・氷見スタディツアー」を実施している。

⑤「Little HIMI：氷見から都心部に出向き、ターゲットとなる移住希望者と関係構築を図り、氷見で活動する先輩移住者をゲストとしたトークイベントと氷見の食材を使ったランチ交流会を行い、氷見のコミュニティを体験しモチベーションを高め、氷見への訪問に繋げる目的で行っている。平成28年－平成30年の3カ年で移住実績44人、ワーキングホリデー13人である。秩父市でも取り入れる施策があると感じられた。

【富山市のシティプロモーション事業を視察して 木村隆彦】

富山市では平成20年にイメージギャップ調査を実施し、シティプロモーション推進懇談会の議論を経て、平成21年にシティプロモーション推進計画の5ヵ年計画を策定している。シティプロモーション推進事業としては、全国に情報を発信する手段を検討し、雑誌やミシュランガイドへの掲載、メジャーなアニメ制作企業とのコラボによるショートムービーを制作し、SNS等での配信による普及を図っている。また、女優・タレントで活躍し、地元出身の柴田理恵さんを特別副市長として委嘱し、テレビ番組等での情報発信を行なっている。また、富山空港に乗り入れしているANAグループと連携協定を締結し、CAサミットの開催や機内誌への掲載、PR映像の首都圏への展開など情報発信にも力を入れている。

富山市内でのユニークな取り組みとして「孫とお出かけ支援事業」を行っている。この事業は高齢者の外出する機会を促進するとともに、世代間の交流を通して家族の絆を深めるため、祖父母と孫と一緒に観光施設等を利用された場合に入園料を全額無料にしている。なお、近隣自治体との連携し8自治体の利用が可能である。また、「花Tram・花Busモデル事業」として花で潤うまちを創出するため、指定された花屋で500円以上の花束を購入し市内の電車等に乗車された方々の運賃を無料にしている。富山市ではシティプロモーション事業や市民サービスを行うことにより、認知度の向上や来訪者数の増加を目指す。市民に対しても、郷土愛やまちの魅力を充実することにより人口流失を抑制している。財政面では秩父市と違いがあるが市民サービスの発想の転換が素晴らしいと思った。